

学校教育のあゆみ



目次

口 絵	
刊行のことば	上田市誌刊行会長 上田市長 母袋 創一
監修のことば	東京大学教授 文学博士 佐藤 信
まえがき	
凡 例	

第一章 江戸時代後期の教育

江戸時代後期の教育	3			
第一節 上田藩校の教育	3			
一 文武学校の設立	3			
文武学校「明倫堂」	上田藩文教のはじめ	コラム・信濃国の藩学校	儒臣による家塾教育	藩校の開設
二 藩校の教育	6			
文武学校の定	コラム・明倫堂揭示、演武場揭示	入学資格と教育科目	和漢学の学習	習礼
祭神と儀式	学業の吟味	教職員組織	肝煎のつとめ	明倫堂学則
三 幕末・維新期の教育	13			
文久年間の藩校改革	幼生寮	鐘美館	維新期の文武学校	コラム・上田藩・県学校の絵図

学校施設と教則	専門学の講習	洋学寮・医学寮	学校書籍	遊学生	貢進生	海外留学生
上田藩分校の今里郷覺						

第二節 寺子屋の教育 25

一 寺子屋のはじまりと普及 25

私塾・寺子屋・手習い師匠	寺子屋のはじまり	寺子屋の普及	上田藩領内の家塾・寺子屋
--------------	----------	--------	--------------

二 寺子屋の師匠と門人 28

(1) 師匠と謝礼 28

師匠の身分職業	師匠の学識と教養	束脩と謝儀
---------	----------	-------

(2) 寺院の寺子屋 30

手習弟子の入門	初登山	千余人の弟子を育てた活文禪師
---------	-----	----------------

(3) 町の寺子屋 32

上田の町の寺子屋師匠	海風堂塾	往時雜記にみられる町の寺子屋
------------	------	----------------

(4) 村の寺子屋 34

家訓と手習い学問のすすめ	広い地域から集まった門人	名づけ親の手習師匠
--------------	--------------	-----------

(5) 筆塚・奉納額と師匠 36

筆塚の建立	裁縫塾
-------	-----

三 寺子屋の教育 37

学習年限とけいこ時間	学習内容	手習本と往来物	上田往来
------------	------	---------	------

四 寺子屋の廃業 39

県の通達	寺子屋の廃業
------	--------

第二章 明治時代の学校教育

明治期の教育……………43

第一節 近代教育のはじまり……………43

一 「学制」の発布……………43

教育を国が進める仕組みへ

文部省設置

「学制」の発布

「学制」の内容

第六大学区第十六中学区第五番小学

コラム・旧長野県

学区取締と学校世話方

学校運営費の負担

「学制」実施の手順と遅れ

重い負担

高い就学率

低かった女子の就学率

二 教育令とその改正……………52

新しい教育令とその骨子

小学校教育の後退

教育令を一年で改正

三 上田における明治初期の学校教育……………55

(1) 初等教育……………55

教育沿革史編纂

取調委員の選抜

上田市域の小学校

第一番小学松平学校

北国巡幸

第二番小学上田街学校

修道学校

(2) 中等教育……………62

上田変則中学校

変則とは

小県郡小県中学校

長野県中学校上田支校

(3) 教員・教員養成……………65

講習所

師範講習所予科学校

長野県師範学校

景況な講習会

第二節 制度を整え国を興す教育へ……………67

一 整う制度と教育勅語……………67

教育を国が栄えるために	徳育の混乱	教育勅語の公布	コラム・教育ニ關スル勅語
道徳は国民の塩	徳目主義	明けても暮れてもヘルバルト	祝祭日の儀式
母ハ家庭ノ訓導			教科書は認可から検定へ
二 上田における明治中期の学校教育	72		
(1) 初等教育	72		
責任から義務へ	上田学校	郡立高等小学校	上田尋常小学校女子部
女子部校の焼失	引責自刃	豊里殿城尋常小学校	上田慈善会
中等教育	76		上田補修義校
(2) 中等教育の役割	上田支校から上田中学校へ	小県蚕業学校	各種学校の設立
三 教員・教員養成	82		
師範学校			
四 教員の団体・活動	83		
小県郡教育会			
五 通俗教育	83		
成人対象の通俗教育			
第三節 充実する制度と教育の拡充	85		
一 充実する制度	85		
(1) 義務教育の徹底	85		
義務教育年限四年から六年へ		無償の原則	
(2) 専門学校の制度化	86		
中等学校卒業後の専門学校			
(3) 教育制度の充実	86		

勅令や省令による制度の充実	学校医の設置と健康管理	二
上田における明治後期の学校教育		88
(1) 初等教育		88
① 幼稚園		88
私立梅花幼稚園	常田幼稚園	
② 小学校		90
尋常科六年・高等科二年へ	小県郡上田男子尋常高等小学校	
豊里殿城尋常高等小学校	小県郡上田女子尋常高等小学校	
(2) 中等・専門教育		93
① 中学校		93
中等教育	長野県上田中学校	
② 高等女学校		95
上田高等女学校設立の動き	上田高等女学校	
	本科三学年編入制度	
	上田実科高等女学校	
③ 実業学校		97
小県蚕業学校		
④ 専門学校		98
上田蚕糸専門学校		
⑤ 各種の学校		101
小県郡上田女子技芸学校		
教員・教員養成		
(3) 講習科	中途で取消しの上田女子師範学校	101
	小県郡私立保姆伝習所	

第三章 大正時代の学校教育

大正期の教育

第一節 大正期の教育改革

一 今までの教育の総点検

臨時教育会議

二 教育の整備充実

(1) 小学校教育について

児童に即した学校方針

上田市尋常高等小学校

幼稚園の制度化

(2) 高まる進学熱

中等教育の拡大

小県蚕業学校の移転

長野県立上田高等女学校

上田実科高等女学校

実業補習学校

塩田公民学校

(3) 各種学校の設立と進展

上田裁縫女学校

大原簿記学校

上田市立上田盲学校

(4) 高等教育の拡大と選抜

高等教育の拡大

上田蚕糸専門学校

女子師範学校の上田移転問題

(5) 義務教育の改善振興

義務教育費国庫負担法

三 生活に近づけた教科書

国定教科書の修正

「ハナ」「ハト」

マメ マス

国際性と国家的色調と

児童の生活や活動を大事に

四 学校制度と改革の指針	118
--------------	-----

義務教育年限の延長問題	革命の広がりをおさえるには	教練と天皇中心の教育を
-------------	---------------	-------------

第二節 自由主義教育の運動	120
---------------	-----

信州教育の誇り

一 人格を磨く	121
---------	-----

東西南北会

二 個性と人類愛と	121
-----------	-----

白樺教育運動

三 生活の中から	122
----------	-----

附属小学校に研究学級創設

四 自分が直接感じたものが尊い	122
-----------------	-----

児童自由画教育運動	山本鼎が蒔いた二つの種	コラム・山本鼎先生顕彰碑	児童自由画展覧会
-----------	-------------	--------------	----------

無手本主義	自由画教育の広がり	児童文化運動の高まり
-------	-----------	------------

第四章 昭和時代の学校教育

昭和期の教育	131
--------	-----

第一節 昭和前期の教育	131
-------------	-----

一 経済不況下の教育	131
------------	-----

大恐慌の影響	教員給与の引き下げ運動	同盟休校のなかでの児童	学校は廃墟の如く
--------	-------------	-------------	----------

教員は給料の一割を寄附	教育愛に殉じた教育者	コラム・小菅武夫訓導の殉職	欠食児童の救済
-------------	------------	---------------	---------

二

ヨクマナビヨクアソベ 二・四事件―新興教育への弾圧

戦時体制へ移りゆく教育……………

135

(1) 軍国主義の台頭……………

135

郷土教育運動 「八紘一宇」の聖戦 一途に戦争拡大 奉安殿の建設

(2) 青年学校……………

138

青年学校の設置 青年学校の軍事教練

(3) 色刷りの教科書……………

139

きれいだなあ 児童の心理と生活を重視 軍事的色彩の教材 国家主義思想を反映した内容

国旗と国家

三

戦時体制下の教育……………

144

(1) 皇国民育成のための学校制度へ……………

144

皇国民の育成 青年学校と男子義務制 中等学校の改革 修業年限の短縮

(2) 学校の改革と整備……………

145

上田繊維専門学校 上田商工学校 梅花・常田幼稚園 青年師範学校の創設

(3) 国民学校制度の実施……………

147

基礎的錬成 錬成という考えを基本に 非常時下の錬成

(4) 戦時版教科書……………

149

テキノタマガ雨ノヤウニ 日本ヨイ国強イ国 ヘイタイサン ススメ ススメ 神国日本の歴史

日出ずる国日本

(5) 拓務訓練と満蒙開拓青少年義勇軍の送出……………

154

満州移民の奨励 身命をかけて国のために 拓殖訓練の実施要項 上田小県の拓殖訓練

四

決戦非常時下の教育……………

160

太平洋戦争勃発 決戦下の組織と教育の統制 学童集団疎開 食糧難のなかで

心のふるさと学童疎開地 報国隊の組織と勤労働員 国内各地へ動員校舎は軍需工場
学校での授業停止

第二節 昭和後期の教育 166

一 学制改革と新教育への転換 166

(1) 新学制の実施 166

新日本建設の教育方針 墨塗りの教科書 学制の改革 新制中学校の発足 新制高等学校の発足

新制大学の開校 新学制の定着

(2) 新教育の発足とその発展 171

新教育の理念 新しい形の授業はじまる 新しい教科書の検定と採択 教育方法の変化

教育課程の編成と教師の研修

(3) 教育行政の民主化 175

教育委員会制度

二 幼児教育と義務教育 176

(1) 幼児教育の進展 176

幼稚園の発展 上田市幼年教育研究会

(2) 小学校 177

社会科・家庭科・自由研究の誕生 児童指導要録 学習指導要領 新学制当初の小学校

上田南小学校の開校

(3) 中学校 179

中学校の新教育課程 特別教育活動と体育競技の大会 新制中学校の発足 第四中学校の開校

第五中学校の開校

(4) 盲・ろう・自律教育 183

	自律学級の開設	上田養護学校の開校	
(5)	学校同和教育		184
	学校同和教育始まる	解放子ども会の発足	
		実態に合わせた学校同和教育	
三	高等学校と大学		185
(1)	新制高等学校		185
	新制高等学校の発足	上田市の高等学校	
		教育課程と各学校の課程編成	
	入学志望者の増減と生徒数	生徒会・クラブ活動	
(2)	大学・短期大学		189
	大学の発足と概況	信州大学繊維学部	
		長野大学	
		上田女子短期大学	
四	教育関係団体の活躍		192
(1)	小県上田教育会		192
	小県上田教育会の沿革	教育会の主な事業	
		菅平夏期大学	
(2)	教職員組合の結成と活動		193
	教職員組合の結成		
(3)	P T A の成立と活動		194
	父兄会からP T A の成立	P T A 活動	
第五章	平成時代初期の学校教育		
第一節	平成初期の学校		201
一	学校の概況		201
	昭和から平成への教育		201

(1)	義務教育……………	201
	人口の増減にあわせて	
(2)	高校教育……………	202
	第四通学区	
(3)	大学・短期大学・専門学校……	203
	各地から集まる大学生	
二	新しい学校の開校……………	203
(1)	塩田西小学校……………	203
	タワーのある学校	
(2)	上田第一中学校……………	204
	新たな教育プログラムに対応した校舎	
(3)	長野県工科短期大学校……	205
	最先端の技術を習得	
	第二節 教育への警鐘……………	206
一	学校が抱える諸問題……………	206
	問題を抱える学校	
(1)	忙しい子どもたち……………	207
	時代とともに	
(2)	社会性の不足や倫理観の問題……	207
	寂しい子どもたち	
(3)	学校生活をめぐる問題……………	208
	学校生活への満足度	

(4)	増える外国籍児童生徒……………	208
	外国籍の子どもたち……………	
(5)	親の価値観の変化……………	209
	しつけはどこが……………	
(6)	忙しい教師たち……………	209
	忙しい教師たち……………	
二	学校教育の課題……………	210
	学校は楽しくなければ……………	
三	新しい人間の創造をめざして……………	211
(1)	より開かれた学校へ……………	211
	学校を開く……………	
(2)	地域の教育力との連携の中で……………	212
	地域で体験を……………	
	執筆分担……………	
	資料提供者・協力者……………	
	参考文献……………	
	あとがき……………	
	上田市誌の編さん組織……………	
	『上田市誌』全三二冊の編成と書名……………	

表紙写真

上田市立浦里小学校の校舎（現本館）。大正十三年（一九二四）に、建築費二万円で建設され、現在も使用されている上田市の学校の中では最も古い校舎です

この校舎本館のろうか正面には、山岡鉄舟の書いた「浦野学校」の門札が掲げられていて、学校の歴史がしのばれます

裏表紙写真

山本鼎かなまの提唱による自由画教育の作品

右上 神川尋常高等小学校尋常科四年生土肥幹夫・絵（昭和十三年）

左下 神川尋常高等小学校高等科一年生西沢一平・絵（昭和十二年）

（神川小学校『学道九十年』から）

上田市誌 近現代編(8)

学校教育のあゆみ

発行 平成十五年十月一日

編集者 上田市誌編さん委員会

発行者 上田市

上田市誌刊行会

上田市大手一―一―一六

電話 〇二六八―三二―四一〇〇

印刷所 信毎書籍印刷株式会社

長野市西和田四七〇